

## 戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究

期間：2015年4月13日～2019年3月31日

〔代表者〕加藤幸治（東北学院大学）

〔共同研究者〕磯本宏紀（徳島県立博物館）

日高真吾（国立民族学博物館）

今井雅之（宮城県教育庁文化財課）

星 洋和（宮城県公文書館）

揖 善継（和歌山県立自然博物館）

増崎勝敏（大阪府立港高等学校）

佐藤智敬（府中市郷土の森博物館）

宮瀧交二（大東文化大学）

葉山 茂（国立歴史民俗博物館）

安室 知（日本常民文化研究所）

### 『問題意識の多様性』と『同時代的な布置』

——共同研究フォーラムの開催と最終報告書の刊行——

研究代表者 加藤 幸治

今年度が最終年度となる共同研究「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」では、最終報告会の開催と調査報告の刊行を行った。

2018年7月7日（土）、共同研究の3年間の成果報告会として第4回共同研究フォーラム「再考 アチック・ミュージアムの水産史研究——“ハーモニアス・デヴェロップメント”の実像——」を実施した。フォーラムは4つの内容で構成した。第一部は「Ⅰ 問題提起」、第二部は「Ⅱ アチック・ミュージアムの同時代的な布置」、第三部は「Ⅲ 水産史研究室の同人らにみる問題意識の多様性」と題してそれぞれが報告を行った。「Ⅳ コメント・ディスカッション」での議論は、戦時体制特有の問題や政策、対外的な関係や資源の確保、時代特有のイデオロギー等が、渋沢敬三の研究と水産史研究室のメンバーの調査活動にどのような影響があったのかが論点となった。

この最終報告会の構成と論点をベースに編集したのが報告書『戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究』国際常民文化研究叢書13（2019）である。具体的な研究成果としては、第Ⅱ章



写真1 共同研究フォーラムのようす（2018年7月）

アチック・ミュージアムの「同時代的な布置」と、第Ⅲ章 水産史研究室同人の「問題意識の多様性」に各メンバーの研究成果を掲載し、目次は共同研究フォーラムをふまえた構成とした。第Ⅱ章には、「渋沢敬三による水産史研究の時代背景について」（宮瀧交二）、「戦前の地方農村青年をとりまく思想的・社会的状況について」（今井雅之）、「未完の筌研究にみるアチック・ミュージアムの調査法」（加藤幸治）、「アチック・ミュージアム・コレクションと水産史研究」（日高真吾・加藤幸治）を収録した。第Ⅲ章 水産史研究室同人の「問題意識の多様性」には、「渋沢敬三と魚名研究——その特徴と学史的意義——」（安室知）、「【資料紹介】魚名整理票」（安室知）、「山口和雄の網漁業研究にみる アチック・ミュージアム時代の水産史研究の位置づけ」（磯本宏紀）、「桜田勝徳採集のハコフグの剥製について」（増崎勝敏）、「祝宮静の豆州内浦漁民史料調査にみる水産史研究の展開」（葉山茂）、「宮本常一による昭和10年代民俗調査の足跡」（佐藤智敬）、「戸谷敏之の問題関心にみる魚肥研究の位置づけ」（今井雅之）、「楫西光速の塩業研究に見る渋沢水産史研究室の経済史学的一面」（星洋和）、「伊豆川浅吉の捕鯨研究と鯨肉食通信調査」（佐藤麻南）を収録した。



写真2 共同研究フォーラム後の記念撮影（2018年7月）

労働問題	流通と統制	皇紀二六〇〇年記念の文化事業
塩の専売	マニファクチュア論争	
地方農村青年と社会思想	産業の近代化と技術革新	
農村問題	小作争議	農業経営の近代化
常民文化研究の理論形成	博物館	農山漁村経済更生運動
大日本聯合青年団	戦時下の水産資源の確保	
民俗誌記述	風俗史研究や写真引き	写真・映像による記録
聞き書きの記録	方言の通信調査	形態分類と網羅的把握
地方文書の筆写	調査要目を用いた調査	民具の蒐集
流通・消費・労働の研究		

写真3 「Ⅳ ディスカッション」の論点

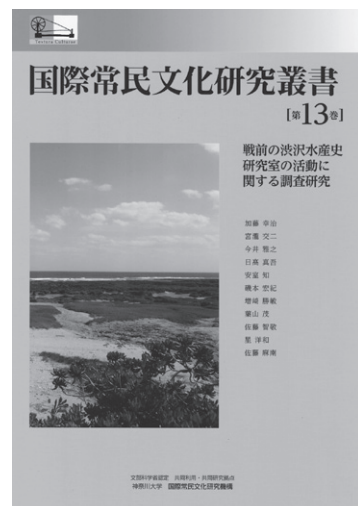


写真4 最終報告書としての『国際常民文化研究叢書』13（2019）表紙

## ■ 2018年度の活動

○第4回共同研究フォーラム「再考 アチック・ミュージアムの水産史研究 —— “ハーモニアス・デヴェロップメント”の実像 ——」2018年7月7日 加藤幸治・磯本宏紀・今井雅之・揖善継・佐藤智敬・葉山茂・日高真吾・星洋和・増崎勝敏・宮瀧交二・安室知・佐藤麻南（東北学院大学大学院／院生）

○成果報告書『戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究』国際常民文化研究叢書13 2019年2月25日